

二〇二六年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(二回)

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は から , 3 ページから 18 ページまであります。
合図があったら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

一 次の文章は、外国生活を長く経験した四人に、外から見た日本について語ってもらおうという形をとっており、本文は一人目の米川さんが語った内容をまとめたものです。これを読んで、後の一から十までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

まず最初は、日本との交流が活発な国アメリカのニューヨークで二〇年近くも暮らしている米川佳伸よねかわよしのぶさんの経験けんけんです。米川よねかわさんは、日本の大学院を終えた一九七六年に、シラキュース大学大学院に留学しました。卒業後もそのままアメリカに残って国際連合で働いています。現在は、国連事務局にある開発技術協力局(DTC D)の調整官として、アジアの開発協力の仕事にたずさわっています。

(中略)

このように、アジア全域を視野において仕事をしている米川よねかわさんの目に、いまの日本はどう映っているのでしょうか。まずそのことから話してもらいました。

「帰るたびに感じるのは、円高の影響えいぎょうで、何から何まで高いということがまず第一でしょうね。一方では、街の清潔さ、製品の品質の高さ、いたれりつくせりのサービスなどが、やはり目立ちます。

それに、電車が正確な時間で運行されているということです。これはあたりまえのように日本人は思っていますが、世界的にみれば、けっしてあたりまえのことではありません。でき上がった交通システムを、合理的・効率的に動かしていくというような活動は、ことに日本人が得意とする分野だと思っています。

とにかくある枠わくが決わまったたら、その範囲はんいで効率性をとことんAツイキュウしていくという姿勢けんちよが顕著けんちよですよ。たしかに日本人は、これまでつくりあげてきた経済や社会のシステムに、自信をもつようになってきました。しかし、これからは、すでにある枠組わくぐみそのものを疑かったり、つくり替かえたりすることが、求められてくるのではないのでしょうか。

米川よねかわさんが、気になり、ずうっと心にかけている二つの言葉があります。その一つは「①日本人の傲慢ごうまんさ」という言葉です。これをはじ

めて耳にしたのは、一九七九年ごろのこと。ニューヨークのある昼食会の席上です。

ゲスト・スピーカーに招かれた「アジア協会」の会長が、日本を含む各国を訪問した印象について、つぎのように語ったといっています。「これまで日本を訪問すると、企業関係者から私たちに、いろいろな質問が投げかけられました。そして、私たちが日本をどう見ているのかについて、彼らがしきりに知りたがっていることも、伝わってきました。しかし最近はちがいます。日本の生産システムや品質管理に自信を深めてきたこともあって、むしろ私たちにたいして「自分たちはここまで到達した。これを見ていってくれ」というように、高みにたった態度をとるようになってきたのです。日本は変わりつつあります」。

アジアの事情に詳しいアメリカ人のこのスピーチに接してから、米川さんは傲慢さということに注意を払って、マスコミの論調や日本人の言動を見るようになりました。やがて八〇年代になると、日本のマスコミにも傲慢さをいさめるような論調が出て少しほっとしましたが、しかし一方では、「自分たちは優れているのだから、外国でもこのやり方が通用するはずだ」と考える日本人の話も聞くようになりました。

たとえば、ニューヨーク駐在のある②若手ビジネスマンのケースがそれです。彼は日本人の経営コンサルタントを相手に、いかに自社製品が日本で売れたかを、「③」説明します。そして、アメリカでも同じように売れるはずだと言い切ります。商慣行が日本とはちがうので、④アメリカに合った販売戦略をとるべきだとアドバイスするコンサルタントの言葉には、聞く耳がないようです。

そのビジネスマンは、コンサルタントの言うことを聞かないだけでなく、せっかくニューヨークにいるのに、取引相手と積極的な交渉をしようという姿勢もありませんでした。コンサルタントを通じて仕事をするのは、たしかに効率的ではあるかもしれませんが、それではいつまでたっても、現地の事情に明るくなることはないのです。「日本企業という、いわば器の中だけで生きているのではないか」と米川さんは言います。「器が膨張して、⑤海外に支社ができて、器に入ったまま、その器のガラス越しに世界を見ているという姿勢なのです」。

これは、おもに経済人についての評言ですが、しかし、経済だけでなくほかの分野のつきあい方にもあてはまってきそうです。

米川よねかわさんには、もう一つ気になっている言葉があります。それは、スイスの国連大使シュノールポンさんの言葉です。ニューヨークに赴任ふにんする前、五年間日本大使をつとめたシュノールポンさんは、たいへんな⑥日本通にっぽんつうです。「あなたは屋久島やくしまに行ったことがありますか。私は屋久杉やくすぎを見て永遠えいゑんということについて考えました」というような話を「⑦」しては、米川よねかわさんを驚おどろかせました。

やはり日本を話題わだいにしながら、食事をとっていたときのことです。突然とつぜん、シュノールポンさんが語調を強めて言いました。「だめです米川さん。それは日本人に特有の発想はつしやうです。いまあなたは、日本人とほかの人びとの違いちがを説明して、こと足れりとしています。私たちは違うんです」とあなたは言いますが、その違いちががいったい何だというのですか。語気ごきの鋭すいどさに、ハッとしましたが、つづきを聞いてすっかり納得なつとさせられてしまいました。

「米川よねかわさん、スイスは小さな国です。しかも、周囲には強大な国がたくさんあります。もし私たちが周囲にむかって、スイスは中立国です。だから、あなた方とは違いちがます」と言ってことを済すませようとしたらどうなるでしょう。『違う』と言ってはだめです。だからこそスイスは、自分の国の利益りやくだけでなく、相手国の利益も考えて、たえず新しい提案ていせんをし、周囲の国々と話し合う土俵どひやうをつくるように努つとめているのです。」

「日本は違う」、「日本のことはほかの人にはわからない」、「だから仕方がない」では済すまないのです。だからこそシュノールポンさんは、「⑧違いちがを確認かくにんすることは、ものごとの始まりにすぎないのだ」と言うのです。この指摘してきを受けてから、⑨いかに日本人が外国人の人びとにとってわかりにくい言動をとっているかについて、米川よねかわさんはあらためて考えさせられました。私たちが何を考え、何を言いたいか、それが相手によくわかるような、「透明性とうめいせい」こそ大事なのだと気づいたのです。

その経歴けいれきからおわかりのように、米川よねかわさんはきわめて積極的せきごくで行動的なタイプの人です。その米川よねかわさんにして、「もっと表現ひょうげんしなさい」とアドバイスされると聞いて、今度は私のほうが考えこまされてしまいました。

米川よねかわさんはつづけます。「最初さいしょにお話ししたように、たしかに日本は町並みまちなみも美しいし、人びとの服装もこざっぱりとしておしゃれです。表情も『ほんわか』幸福しあわせそうにみえます。でも、いつのまにか社会・経済不安も広がってきて、人びとの表情にもそれがあらわれている

ように思います。私が心配するのは、いまの日本から「経済的繁栄」と「治安の良さ」をとつたら何が残るのかということです。ニューヨークで暮らしていると、たしかに欧米文化とはちがう日本文化の異質性は感じますが、逆に、外国の人びとと共有し、外国の人びとの血肉になっているような日本文化がほとんどないことに気づかされるからです。

では日本は、何を目指すべきなのでしょう。私は、外国の人びとから信頼される国になるべきだと思っています。これまでの日本は、ほかの国がその経済的繁栄を「見習うべき国」ではあったかもしれませんが、しかし、「信頼できる国」になるということは、そのもう一つ先にあるものです。日本人が、中国、韓国をはじめとする隣国の人びとにとって「共通の未来を託するにたる隣人である」と思われるようになることが、何よりも大切で、そのために何をすべきか、じっくり考えるべき時期にきているのではないのでしょうか。

日本についての情報を、もつと日本人が海外にむけて発信する必要がある、ということが言われます。それが必要なことはたしかです。それと同時に、日本に住む日本人が、日本文化についての情報を発信するというだけでなく、人類の良質な文化を創り上げていく人びとが世界中から日本に集まり、長く暮らし、その文化を日本から発信していけるようになればさらによい、と米川さんは言います。

たとえば、世界の学者や芸術家やスポーツ選手などが自由に活躍できる舞台をあたえられる、そんなBカイホウ的な社会に日本がなるべきだという指摘です。そうなれば、私たちが抱く日本というもののイメージも、より豊かなものになるはずですよ。

(注) 『国際感覚ってなんだろう』 渡部 淳

*1 コンサルタント——一定の事柄について相談・助言・指導を行う専門家。

*2 商慣行——取引当事者間の長年の取引経緯や先例によって形成された慣習。

*3 評言——批評の言葉。

問一 ―線 A 「ツイキュウ」・ B 「カイホウ」 のカタカナを正しい漢字に直しなさい。(一画一画でいねいにはっきりと書くこと。)

問二 ―線 ① 「日本人の傲慢さ」とありますが、日本人のどのような様子にそれを感じさせられたのですか。最も適当な言葉を本文中から十字以内で探し、抜き出しなさい。

問三 ―線 ② 「若手ビジネスマン」のような人物と近い意味を表す言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 河童かっぱの川流れ イ 井の中の蛙かわず ウ 尻馬しりつまに乗る エ 水を得た魚 オ 猫ねこをかぶる

問四 空らん「③」・「⑦」に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ③ とうとうと ⑦ さりげなく

イ ③ しっかりと ⑦ すらすらと

ウ ③ せつせつと ⑦ おもむろに

エ ③ 堂々と ⑦ なごやかに

オ ③ こんこんと ⑦ 何気なく

問五 ―線 ④ 「アメリカに合ったくないようです」とありますが、若手ビジネスマンのこうした態度は何から生じているのですか。本

文中から二字で探し、抜き出しなさい。

問六 ―線⑤「海外に支社ができてもう世界を見ている」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現地の価値基準や考え方を考慮せず、あくまで日本で通用していたやり方で外国でも商品を販売しようとする事。

イ 現地の交渉相手が様々な考えを出してくれているのに、それらをすべて無視して傍若無人にふるまっている事。

ウ 現地に駐在しているにもかかわらず、ずっと部屋の中に閉じこもって、現地の仕事相手と顔を合わせようとしない事。

エ 現地で生活しながらもその仕事仲間に関心を開かず、日本のことばかりに思いをはせながら仕事をしている事。

オ 現地ですぐに求められているものが何なのか、自分の足で歩いて実際の状況をその目で見てみようとしな事。

問七 ―線⑥「日本通」とありますが、この「通」と同じ意味で使われている熟語として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 貫通 イ 通学 ウ 通報 エ 内通 オ 精通

問八 ―線⑧「違いを確認することは、ものごとの始まりにすぎないのだ」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手との違いを確認して初めて、自他の違いの上に立った独自の生活を営むことができるのだ事。

イ 相手との違いを確認しあうことが、対等な立場での話し合いを実現可能にする土台なのだ事。

ウ 相手との違いを確認することが、相手に歩み寄って国際関係を築いていく第一歩なのだ事。

エ 相手との違いを確認してこそ、どの国も築けなかった新しい文化の創出につながるのだ事。

オ 相手との違いを確認することは、互いの文化や商慣行の違いを乗り越えていくための鍵なのだ事。

問九 ―線⑨「いかに日本人が言動をとっているか」とありますが、日本人がこのような言動をとるのはなぜだと考えられますか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外国人と日本人は違う^{ちが}という立場にたつて、自分たちのことを理解してもらおうとしないだけでなく、相手より優位に立とうとするから。

イ 外国人に日本人のことは分からないと考え、自分たちについて語ることも理解を得ようとすることもせず、互^{たが}いの関係性をつくろうとしないから。

ウ 日本には「以心伝心」という考え方があり、相手にわざわざ説明せずとも通じることを良しとする文化があり、それを外国人にも当てはめるから。

エ 日本は文化や経済で大きな発展をとげ、すべてのことが日本という枠^{わく}の中で完結するため、外国と協力関係を結ぶことに必要性を感じていないから。

オ 外国人と日本人の違い^{ちが}は、それぞれが生活してきた文化的背景が根底にあるため、その違い^{ちが}を埋^うめるのは非常に難しいことだとあきらめているから。

問十 米川^{よねかわ}さんは今後どのようなことが日本には必要だと考えていますか。七十字以内で答えなさい。

三

次の文章は、大人になった「私」が幼少時を回想したものです。これを読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。
(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

著作権の関係で、公開できません。

著作権の関係で、公開できません。

著作権の関係で、公開できません。

著作権の関係で、公開できません。

著作権の関係で、公開できません。

(注)

- *1 プロンプター——舞台公演で出演者に台詞を伝える役目の人。
- *2 もぎり——劇場や映画館などの入り口で入場券の半分をもぎとる人。
- *3 エスプレッソ——エスプレッソコーヒーのこと。
- *4 タムラカダブラ、アブラカダブラさん——西洋魔術における病氣や災いを払う呪文「アブラカダブラ」をもじった言葉。
- *5 把手——器物の取っ手。

問一 — 線①「舞台上の父は、十二分のあいだ、ひとことも口をきくことがなかった」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たった十二分という短時間の手品だが、客に見てもらうにはかなりの集中力が求められたから。
 - イ 他の手品師は無関心な、舞台上では喋らないという手品のスタイルに誇りを持っているから。
 - ウ 手品には立派な衣装など必要なく、ただ二本の手さえあれば十分だと思っていたから。
 - エ 父は本物の手品とは言葉や衣装などに頼ることなく手だけで行う芸術だと考えていたから。
 - オ わざわざおしゃべりなどしなくても手品のインキ臭さを隠すことはできると考えていたから。
- 問二 — 線②「父は、誰へともなくそう言い、かならず私の右手を握りしめて高く差し上げた」とありますが、このときの「父」の様子として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大人たちに交じり口数少なくなった息子を周囲に紹介しやうかいすることで、緊張きんちやうを和らげてあげようとしている様子。

イ 家庭だけでなく仕事場でも会話をリードする姿を息子に見せながら大人の世界を少しずつ教えている様子。

ウ かわいい息子を誰だれへともなく気軽に紹介しやうかいしながら慈しみ、やや得意気な気持ちを楽しんでいる様子。

エ 舞台上上がっていないときは仕事のことは忘れ、ごく普通の父親として息子に接しようとしている様子。

オ 自慢じまんの息子も会話かいわに誘さそい、いつものように仕事仲間と冗談じやうだんを交わしながらくつろぎ楽しんでいる様子。

問三 ―線③「あのころのくことがある」とありますが、この描写びやうしの説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日常の目まぐるしい時の流れに疲れつかをおぼえ、父の愛情の中でゆったりと落ち着いて過ごしていたあのころに戻もどりたいと思っ
ている。

イ 幼少期の記憶きおくが自然とよみがえり、当時の建物やコーヒースタンドの中の人々、情景を古い映画の一場面のように思い出してい
る。

ウ 手品で人々を魅了みりようするかたわら、ゆったりとコーヒートを片手たばこに煙草を吸いながら、他の大人たちと時間を過ごしていた父を思慕しぼ
している。

エ 父とあの古い劇場に行っていた当時は、時の流れも人々の振舞ふまいも今とはまったく違い、あたかも幻想げんそうであるかのように思わ
れている。

オ 毎週末あの古い劇場に通っていたが、そこで見聞きした大人の世界に心のどこかで魅了みりようされていたようだと思なつい出してい
る。

問四 —線④「私は、そこにいるとき、飽くことなくそればかり見つめていた」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 銀色の機械が不思議な音をたてながらタブラさんを黙々と働かせているように感じ、得体のしれない姿とあいまって魅力を感じたから。

イ 不思議な銀色の機械がコーヒーを絞り出し、最後に生き物のようにシューツと音をたてる様は魔法のようで、いつも魅了されていたから。

ウ いつも磨かれてきれいな銀色の機械が父の注文する「エスプレッソ」を作る機械だと分かって、よりいっそう興味関心がわいたから。

エ 銀色の機械がコーヒーを作る様はなんとも不思議で、しかもそれを謎の多いタブラさんが操作することはいっそう魅惑的に思えたから。

オ 銀色の機械から苦いコーヒーが作り出される様はあたかも魔法のようでとても神秘的で、その仕組みを知りたいと関心を抱いていたから。

問五 —線⑤「タブラさんは手が空くと、気がしたものだ」とありますが、この部分からわかる「タブラさん」の人物像として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仕事熱心で客への対応もとても丁寧だが、人と気軽に会話することは不得手で、手が空いた時は一人静かに考え事にふけりがない人。

イ 仕事をする中で時に失敗をし気落ちすることもあるが、まじめで責任感も強く、仕事道具にはとてもこだわる、どこか職人気質のある人。

ウ 余計なおしゃべりはせずただただ仕事に忠実で、使う道具を大切にするまじめさを持ちながら、また一方で不思議な謎めいたと

ころのある人。

エ 目立つことはないがお店のマスターとしてまじめに勤め、時間さえあればマシーンを磨くことで仕事の誇りを確認しているやや風変わりな人。

オ お店のマスターとしての仕事を確実にやり遂げる実直さはあるが、社会性が乏しく客との関係をうまく作ることができないやや不器用な人。

問六 —線⑥「象徴的なのは父の舞台衣装で」とありますが、「父の舞台衣装」が「象徴的」であるとはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父の手品の持つ神秘性はいくつも作られた袖口しかない奇妙な舞台衣装が最もよく説明していたということ。

イ 父の手品に対する特異な考えが袖口だけの粗末な舞台衣装へのこだわりに明らかにあらわれていたということ。

ウ 父の舞台衣装の中途半端な作りを見れば手品の神秘性が半減されているのもうなずくことができたということ。

エ 父がまぎれもなくふたつの手だけの手品師であることを独特な舞台衣装が明らかにしていたということ。

オ 父が日常と非日常の二面性を合わせ持つ手品師であることを複雑な作りの舞台衣装が証明していたということ。

問七 —線⑦「何か生々しい秘密を見せられた」とありますが、どういうことに対して「何か生々しい秘密」という表現をしているのですか。四十字以内で答えなさい。

問八 —線⑧「たちこめる蒸気に、一瞬、父の顔がふっと消えて見えなくなった」とありますが、この一文は読者にどのようなことを思い浮かべさせる効果がありますか。次に示した説明文の空らんに入る最も適当な言葉(①は五字、②は二字)を本文中からそれぞれ探し、抜き出さない。

《 「父」の顔が消えた現象を「 ① 」によって演じられた「 ② 」として思い浮かべさせる効果。 》

問九 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父は手品師としての自分に自信を持っており、手だけで行う手品のスタイルで毎週末観客を魅了し、劇場で一番の人気をはくしていた。

イ タブラさんは不思議な人で、いつも神秘的なマシンを用い呪文めいた言葉を唱えてエスプレッソコーヒーを入れ、客の気持ちをほっとさせていた。

ウ 劇場の舞台には常に特別な幕がおろされており、中央に開いた二つの穴にスポットライトを当てることで演者を引き立てる工夫が凝らされていた。

エ 毎週劇場で手品を見ていた「私」は、ひそかに父にあこがれるとともに、演技の前後で大人に混じって飲むココアがいつも楽しみだった。

オ 劇場の地下にあったコーヒースタンドはゆっくりとした時間の流れを感じさせる場所であり、そこに集う人々がほっと一息つける空間であった。

